

平成21年3月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成20年8月12日

上場会社名 株式会社アールテック・ウエノ 上場取引所 大証ヘラクレス  
 コード番号 4573 URL <http://www.rtechueno.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋寺 由紀子  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員ビジネス (氏名) 松川 理絵 TEL (03)3596-8011  
 四半期報告書提出予定日 平成20年8月12日

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第1四半期の業績(平成20年4月1日～平成20年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第1四半期	2,156	(—)	966	(—)	998	(—)	590	(—)
20年3月期第1四半期	—	(—)	—	(—)	—	(—)	—	(—)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
21年3月期第1四半期	12,060	83	11,907	75
20年3月期第1四半期	—	—	—	—

(注) 当社は、当事業年度より第1四半期業績を開示しているため、前第1四半期実績及び対前年同四半期増減率の記載は行っていません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
21年3月期第1四半期	9,166		6,651		72.6	135,212	84	
20年3月期	8,183		5,130		62.7	108,063	10	

(参考) 自己資本 21年3月期第1四半期 6,651百万円 20年3月期 5,130百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	—	—	7,500 00	7,500 00
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	8,000 00	8,000 00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 : 無

3. 平成21年3月期の業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期累計期間	3,534	—	1,258	—	1,261	—	734	—	14,941	43
通期	7,204	13.8	2,655	△5.4	2,663	△1.8	1,550	△25.1	31,550	10

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの）

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

〔(注) 詳細は、4 ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。〕

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

21年3月期第1四半期	49,191株	20年3月期	47,480株
-------------	---------	--------	---------

② 期末自己株式数

21年3月期第1四半期	一株	20年3月期	一株
-------------	----	--------	----

③ 期中平均株式数（四半期累計期間）

21年3月期第1四半期	48,928株	20年3月期第1四半期	一株
-------------	---------	-------------	----

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、3 ページ【定性的情報・財務諸表等】 3. 業績予想に関する定性的情報をご参照ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、原油価格の高騰や資源価格の上昇等によるコスト高を背景に、企業業績の悪化が懸念され、景気の減速感が強まりつつ推移しました。

本邦の医薬品業界においては、社会保障費の削減を目的とした医療費抑制の基調は変わらず、世界最大の医薬品市場である米国でサブプライムローン問題に端を発した金融・為替市場の混乱が海外での実体経済に影響がでるなど、今後の見通しは予断を許さない状況にあります。

当社の主力商品であるレスキュラ点眼液は、眼科医を対象とした製品説明会や眼底読影勉強会等を積極的に開催しております。その結果、売上高の減少傾向を止めるまでには至っておりませんが、対前年度減少率は縮小されております。一方、米国のSucampo Pharmaceuticals, Inc. 社が開発し、当社が製造供給を行っているAmitizaカプセルについては、平成20年4月に食品医薬品局(FDA)よりAmitizaカプセルの便秘型過敏性大腸症候群についての効能追加の承認を受け、全米に向けて出荷が集中したことから、当第1四半期の売上高に大いに寄与しました。

これらの結果、当第1四半期の業績につきましては、売上高2,156百万円、営業利益966百万円、経常利益998百万円、四半期純利益590百万円となりました。

なお、当事業年度より第1四半期決算短信を作成しているため、前第1四半期会計期間との比較は行っておりません。

2. 財政状態に関する定性的情報

流動資産の残高は5,222百万円(前事業年度末5,204百万円)となり、17百万円増加しました。主な要因は、売掛金の増加(475百万円から674百万円へ198百万円増)や前払費用の増加(90百万円から439百万円へ349百万円増)となった一方、現金及び預金の減少(2,160百万円から1,818百万円へ342百万円減)や仕掛品の減少(1,670百万円から1,349百万円へ320百万円減)によるものであります。

固定資産の残高は3,944百万円(前事業年度末2,978百万円)となり、965百万円増加しました。主な要因は、投資有価証券の増加(1,991百万円から2,837百万円へ845百万円増)や長期前払費用の増加(3百万円から141百万円へ138百万円増)によるものであります。

流動負債の残高は1,038百万円(前事業年度末1,928百万円)となり、889百万円減少しました。主な要因は、未払法人税等の減少(1,067百万円から366百万円へ701百万円減)や前受金の減少(448百万円から295百万円へ152百万円減)したことなどによります。

固定負債の残高は1,476百万円(前事業年度末1,123百万円)となり、352百万円増加しました。主な要因は、繰延税金負債の増加(574百万円から916百万円へ342百万円増)や役員退職慰労引当金の増加(48百万円から51百万円へ3百万円増)によるものであります。

純資産の残高は6,651百万円(前事業年度末5,130百万円)となり、1,520百万円増加しました。主な要因は、その他有価証券評価差額金の増加(1,149百万円から1,651百万円へ502百万円増)や公募増資、第三者割当に伴う資本金の増加(257百万円から649百万円へ392百万円増)と資本剰余金の増加(196百万円から589百万円へ392百万円増)によるものであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

現時点において、業績の変動を伴う要因が想定されないことから、平成20年5月12日発表の通期の業績予想に変更はありません。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。
- ② 通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、当第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法)により算定しております。  
なお、これによる損益に与える影響はありません。
- ③ 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する事業年度に係る四半期財務諸表から適用することができることになったことに伴い、当第1四半期会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。  
なお、これによる損益に与える影響は軽微であります。

5. 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成20年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,818,266	2,160,574
売掛金	674,116	475,823
製品	79,610	90,716
仕掛品	1,349,582	1,670,525
原材料及び貯蔵品	522,755	521,539
その他	777,899	285,287
流動資産合計	5,222,231	5,204,466
固定資産		
有形固定資産	※1 701,644	※1 712,373
無形固定資産	192,998	200,983
投資その他の資産		
投資有価証券	※2 2,837,759	※2 1,991,897
その他	211,978	73,478
投資その他の資産合計	3,049,737	2,065,375
固定資産合計	3,944,380	2,978,733
資産合計	9,166,611	8,183,199
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	110,597	177,270
未払法人税等	366,352	1,067,656
その他	561,842	683,657
流動負債合計	1,038,792	1,928,584
固定負債		
長期借入金	500,000	500,000
繰延税金負債	916,773	574,374
役員退職慰労引当金	51,662	48,332
執行役員退職慰労引当金	2,351	1,072
その他	5,777	—
固定負債合計	1,476,564	1,123,779
負債合計	2,515,356	3,052,363
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	649,256	257,105
資本剰余金	589,056	196,905
利益剰余金	3,761,384	3,527,372
株主資本合計	4,999,697	3,981,382
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,651,557	1,149,453
評価・換算差額等合計	1,651,557	1,149,453
純資産合計	6,651,254	5,130,835
負債純資産合計	9,166,611	8,183,199

## (2) 【四半期損益計算書】

(単位：千円)

当第1四半期累計期間  
 (自平成20年4月1日  
 至平成20年6月30日)

売上高	2,156,967
売上原価	726,616
売上総利益	1,430,351
販売費及び一般管理費	※1 463,819
営業利益	966,531
営業外収益	
為替差益	37,093
その他	283
営業外収益合計	37,377
営業外費用	
支払利息	2,020
株式交付費	3,241
営業外費用合計	5,262
経常利益	998,646
特別利益	—
特別損失	
固定資産除却損	35
特別損失合計	35
税引前四半期純利益	998,610
法人税、住民税及び事業税	360,514
法人税等調整額	47,984
法人税等合計	408,498
四半期純利益	590,112

## (3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第1四半期累計期間

(自平成20年4月1日

至平成20年6月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	998,610
減価償却費	57,538
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	3,330
執行役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	1,278
支払利息	2,020
為替差損益(△は益)	△31,097
売上債権の増減額(△は増加)	△198,293
たな卸資産の増減額(△は増加)	330,832
前渡金の増減額(△は増加)	△47,614
前払費用の増減額(△は増加)	△349,213
長期前払費用の増減額(△は増加)	△138,550
仕入債務の増減額(△は減少)	△66,672
未払金の増減額(△は減少)	54,033
未払費用の増減額(△は減少)	△1,185
前受金の増減額(△は減少)	△152,971
その他	△104,704
小計	357,342
利息の支払額	△3,807
法人税等の支払額	△1,053,898
営業活動によるキャッシュ・フロー	△700,362
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△101,141
その他	50
投資活動によるキャッシュ・フロー	△101,091
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	300,000
短期借入金の返済による支出	△300,000
株式の発行による収入	769,575
配当金の支払額	△356,100
リース債務の返済による支出	△154
ストックオプションの行使による収入	14,728
財務活動によるキャッシュ・フロー	428,048
現金及び現金同等物に係る換算差額	31,097
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△342,307
現金及び現金同等物の期首残高	2,160,574
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 1,818,266

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項なし

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成20年4月9日に株式会社大阪証券取引所ニッポン・ニュー・マーケットー（ヘラクレス）に上場し、公募増資による払込をうけました。この結果、資本金が311,550千円、資本剰余金が311,550千円増加しました。また、平成20年5月7日付で、三菱UFJ証券株式会社から第三者割当増資の払込を受け、資本金が73,237千円、資本剰余金が73,237千円増加しました。

